

## 令和3年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞

### 「安心できる社会」

柏市立逆井中学校 三年 秋山 陸

私の叔母は、重度の障害者である。高校に入学後、バレーボール部に所属し元気に学校生活を送っていたが、一年生の時、盲腸の手術中に医療事故にあった。手術中に一時的に心臓が止まってしまい、心臓マッサージで回復したものの、心臓が止まっている間、脳に血液が運ばれなくなり、酸素不足で重度の障害者となったのだ。歩くことはもちろん、話すことも、ひとりで食事をすることも、ひとりでトイレに行くことさえもできなくなってしまう。退院後から支援学校に通い、現在は、身体障害者の通所施設に通っている。

ごく普通の元気な高校生だった我が子が、ある日突然重度の障害者になってしまった祖父母は本当に不安だったと思う。そんな中、周りの助けもあり、この国には障害者のための様々な制度や地域の多くの支援があることをおしえてもらい、障害がある人やその家族も安心して暮らすことができるということを知ったそうだ。

日本には身体障害者手帳、精神障害者手帳、療育手帳という障害者のための3つの制度がある。叔母はその中の療育手帳と身体障害者手帳を持っている。療育手帳とは知的障害者が持つことのできる手帳で、障害の重さでAとB判定に分けられ、各自治体によってさらに細かく分けられている。療育手帳を叔母の住む東京都では「愛の手帳」とよぶそうだ。身体障害者手帳とは、視覚、聴覚、手足や臓器など身体に障害がある人に交付される手帳で、一級(最重度)から六級(軽度)に分けられている。手帳の種類や等級によって受けられる内容は異なるが、障害者手帳を持っていることで自治体や企業などから様々なサービスを受けることができる。

くわしく調べてみると、所得税や住民税、相続税などの障害者控除、医療費や必要な車椅子などの器具に関する費用の助成、給付金だけでなく、電車やバス、タクシーなどの交通機関や映画、遊園地、博物館などの公共施設を利用する際に受けることができるサービスなどもあるということが分かった。そしてこのような制度は、税金があることで成り立っているということも知った。社会福祉など社会保障制度の充実のためにも税金は、役に立っているのだ。

祖母は「地域の多くの支援のお陰で生活が成り立っているので、助かっている。感謝しないと。」というも言う。私は、障害のある人など社会生活をする上で様々なハンディキャップを負っている人達やその家族が安心して暮らしていけるように、ちゃんと税金を納めて社会に貢献できる大人になりたいと思う。